

村の鍛冶屋

作詞・作曲者不詳

♩=84 *mf* G D7 G

3 5 5 5 1 3 3 3 2 5 6 5 1 1 2 3 0

1 しばしも やすま ず つち うつ ひびき
2 あるじは 名高き いっこく 老爺 (おやじ)

G D7 G

3 5 5 5 1 3 3 3 2 3 1 2 2 3 1 0

とびちる ひばなよ はしる ゆだま
はやおき はやねの やまい しらす

p D7 G *f* D7

7 7 1 2 7 1 1 2 3 1 5 3 5 3 2 1 2 3 2 0

ふいごの 風さえ 息をも 継(つ)がず
てつより かつた いと じまんの ういで

mf G D7 G

3 5 5 5 1 3 3 3 2 3 1 2 2 3 1 0

しごと にと せいだす むらの かじや
うちだす はものに こころ こもる

村の鍛冶屋

作詞・作曲不詳

- 一 暫時 (しばし) もやまずに 槌 (つち) うつ響 (ひびき)。
飛び散る火の花、はしる湯玉 (ゆだま)。
鞆 (ふいご) の風さえ 息をも継(つ)がず、
仕事に精出す 村の鍛冶屋。
- 四 かせぐにおいつく 貧乏なくて、
名物鍛冶屋は 日に繁昌。
あたりに類なき 仕事の誉れ、
槌うつ響に まして高し。

- 二 あるじは名高き いっこく老爺 (おやじ)、
早起早寝の、病 (やまい) 知らず。
鉄より堅しと ほこれる腕に
勝 (まさ) りて堅きは、彼がこころ。

- 三 刀はうたねど、大鎌小鎌、
馬鍬 (まぐわ) に作鍬 (さくぐわ)、鋤 (すき) よ、鉈 (なた) よ。
平和の打ち物 休まずうちて、
日毎 (ひごと) に戦う、懶惰 (らんだ) の敵と。

※昭和 17 年初等科音楽の歌詞

- 一 暫時 (しばし) もやまず槌うつ響き
飛び散る火花よ走る湯玉
ふいごの風さえ息をもつがず
仕事に精出す村の鍛冶屋
- 二 あるじは名高い働き者よ
早起き早寝のやまい知らず
長年鍛えた自慢の腕で
打ち出す鋤鍬 (すきくわ) 心こもる